

2024-25 年 フットサル競技規則 主な改正

競技規則変更の概要

符号: 黄色下線 = 新しい/変更された文章 ~~取り消し線~~ = 削除された文章

フットサル競技規則に関する付記

フットサル競技規則の修正

(…)

ユース、年長者、障がい者およびグラスルーツのフットサル

- ・ ピッチの大きさ
- ・ ボールの大きさ、重さ、材質
- ・ ゴールポストの間隔とクロスバーのピッチ面からの高さ
- ・ キャプテンが着用しなければならないアームバンドの明確な要件
- ・ (同じ時間の)第1ピリオドと第2ピリオドからなる試合時間(および、同じ時間の2つのピリオドからなる延長戦の時間)
- ・ ゴールキーパーがボールを投げることに対する制限

(…)

第 1 条 ピッチ

11 ピッチ上の広告

競技会規定で禁止されていない場合、競技者や審判員を惑わす、また混乱させない限り、境界線から 0.75メートル以内およびピッチのマーキング上を除き、ピッチおよびテクニカルエリアの床面ピッチ面上の広告は、認められる。すべてのピッチ上の広告は、境界線から少なくとも 0.75m 離さなければならない、ピッチのマーキングの上には認められない。

第 3 条 競技者

12 チームキャプテン

各チームには、識別できるアームバンドを着用したキャプテンがいなければならない。

チームキャプテンは、なんら特別な地位や特権を与えられているものではないが、そのチームの行動についてある程度の責任を有している。

第 4 条 競技者の用具

2 基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具は、次のものであり、それぞれに個別のものである。

- ・ (…)
- ・ ショーツ — ゴールキーパーは、トラックスーツのパンツをはくことができる。
- ・ (…)
- ・ すね当て — それ相様に保護することができる適切な大きさと材質でできていて、それ相様に保護することができ、ソックスで覆われていなければならない。競技者は、すね当ての大きさと適切さに責任を負う。
- ・ (…)

チームキャプテンは、関連する競技会主催者によって用意もしくは認められたアームバンド、または単色のアームバンドを着用しなければならない。それに、「captain」という単語、もしくは「C」という文字やその翻訳された単語、文字も入れることができるが、単色でなければならない(「フットサル競技規則の修正」も参照)。
(…)

4 その他の用具

グローブ、ヘッドギア、フェイスマスク、また、柔らかく、パッドが入った軽い材質でできている膝や腕のプロテクターなど危険でない保護用具は、ゴールキーパーの帽子やスポーツめがねと同様に認められる。ゴールキーパーは、トラックスーツのパンツをはくことができる。

第 8 条 プレーの開始および再開

2 ドロップボール

反則と罰則

(…)

しかしながら、ボールをドロップされた競技者がコントロールできない状況により(例えば、施設の状態や正しくボールがドロップされなかった)、ドロップしたボールが少なくとも2人の競技者に触れられることなく、どちらかのゴールに入ったならば、ボールは再びドロップされるべきである。

第 10 条 試合結果の決定

3 PK戦(ペナルティーシュートアウト)

(…)

試合中に退場を命じられた競技者のキックへの参加は認められないが、試合中、またはどちらのチームが最初にキックをするかどうかを決めるコイントスの前までに競技者、交代要員またはチーム役員に示された注意や警告は、PK戦(ペナルティーシュートアウト)に繰り越されない。

進め方

PK戦(ペナルティーシュートアウト)の開始前

・主審は、その他に考慮すべきこと(例えば、ピッチ施設の状態、安全、カメラの設置など)がない限り、または、競技会規定に特に定める場合を除き、コインをトスしてキックを行うゴールを決定する。

第 12 条 ファウルと不正行為

2 間接フリーキック

競技者が次のことを行った場合、間接フリーキックが与えられる。

(…)

・相手チームのゴールに次のように得点する。

- ・ 偶発的で、手や腕で体を大きくしていない場合に、偶発的に自分の手や腕から直接(ゴールキーパーを含む)。
- ・ 手や腕で体を大きくしていない場合に、偶発的にボールが自分の手や腕に触れた直後に、ただし、ボールが触れた後、他の競技者によって意図的にプレーされていない場合。

(…)

ゴールキーパーが次の反則のいずれかを行った場合も、間接フリーキックが与えられる。

(…)

ボールコントロールの4秒のカウントに関して、ゴールキーパーがボールをコントロールしていると判断されるのは、次のときである。

(…)

- ・手または足でボールをドリブルしているとき。

ゴールキーパーが手でボールをコントロールしているとき、相手競技者は、ゴールキーパーにチャレンジすることができない。

(…)

3 懲戒処置

反スポーツ的行為に対する警告

競技者が反スポーツ的行為で警告されなければならない状況は、様々である。例えば、

(…)

- ・ 相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止するためにボールを手や腕で扱う。ただし、意図的でないハンドの反則として主審・第2審判がペナルティーキックを与えた場合を除く。
- ・ 相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止し、意図的でないハンドの反則として主審・第2審判がペナルティーキックを与える。

(…)

退場となる反則

競技者または交代要員は、次の反則のいずれかを行った場合、退場を命じられる。

- ・ 意図的なハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する(自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く)、または、意図的にゴールを動かすもしくは転倒させる(ボールがゴールラインを越えることを阻止するときなど)。
- ・ 自分たちのペナルティーエリア外で意図的でないハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する。

(…)

得点または決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)

競技者が、意図的なハンドの反則によりを行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、反則が起きた場所にかかわらず、その競技者は退場を命じられる(自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く)。

競技者が意図的でないハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止し、主審・第2審判がペナルティーキックを与えた場合、反則を行った競技者は警告される。

(…)

物(またはボール)を投げる、またはける反則

すべての場合において、主審・第2審判は、懲戒処置を適切にとる。

- ・無謀な場合 - 反スポーツ的行為として警告する。
- ・過剰な力を用いた場合 - 乱暴な行為として退場を命じる。

第13条 フリーキック

5 各ピリオド6つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキック(DFKSAF)

(…)

進め方

- ・ ボールは、10m マーク主の中心にボールの一部が触れるか、かかっている状況、または DFKSAF の反則が行われた場所(ペナルティーエリアの外で、守備側チームのゴールラインとゴールラインに平行なゴールラインから 10m の仮想のラインの間のエリアで行われた場合)で静止していなければならない。

(…)

反則と罰則

主審・第2審判がDFKSAFを行うよう合図を行ったならば、キックは4秒以内に行わなければならない。キックが4秒以内に行われなければ、キックが行われる場所からの間接フリーキックが相手チームに与えられる。

競技者による侵入(守備側ゴールキーパーを除く)

・DFKSAFをけた競技者の味方競技者は、次の場合にのみ侵入したとして罰せられる。

- ・ 侵入が、明らかにゴールキーパーに影響を与えた。または、
- ・ 侵入した競技者がボールをプレー、またはボールに向かうことで相手競技者にチャレンジして、その後、得点する、得点しようとする、または得点の機会を作り出す。

・ゴールキーパーの味方競技者は、次の場合にのみ侵入したとして罰せられる。

- ・ 侵入が、明らかにキッカーに影響を与えた。または、
- ・ 侵入した競技者がボールをプレー、またはボールに向かうことで相手競技者にチャレンジして、相手競技者が得点する、得点しようとする、または得点の機会を作り出すことを妨げる。

ゴールキーパーの味方競技者が侵入により罰せられた場合、その試合において最初の反則に対しては注意が与えられ、それ以降の反則には警告が与えられる。

ボールがインプレーになる前に、次のいずれかが起きた場合、

(…)

- ・ 競技者がより重大な反則(例えば、認められていないフェイント)を行った場合を除き、両チームの競技者が反則を行った場合、キックは再び行われる。反則した競技者はその試合において最初の反則については注意が与えられる。以降、同じ競技者が反則を行った場合、その競技者は警告される。競技者がより重大な反則(例えば認められていないフェイント)を行った場合、相手に間接フリーキックが与えられ、反則を行った競技者は注意されることなく、警告される。

(…)

6 DFKSAF の要約表

6つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキック(DFKSAF)の結果		
反則	ボールがゴールに入る	ボールがゴールに入らない
攻撃側競技者による侵入	影響あり: <u>DFKSAF</u> をは再び 行うわれる 影響なし: <u>得点</u>	影響あり: 守備側チームの間 接フリーキック 影響なし: <u>DFKSAF</u> は再び行 われぬ
守備側競技者による侵入	影響あり: <u>得点</u> 影響なし: <u>得点</u>	影響あり: <u>DFKSAF</u> をは再び 行うわれる + 守備側チームの 競技者に注意、以降の反則に は警告 影響なし: <u>DFKSAF</u> は再び行 われぬ
守備側競技者および 攻撃側競技者による侵入	影響あり: <u>DFKSAF</u> をは再び 行うわれる + 反則をした競技 者に注意、以降の反則には警 告 影響なし: <u>得点</u>	影響あり: <u>DFKSAF</u> をは再び 行うわれる + 反則をした競技 者に注意、以降の反則には警 告 影響なし: <u>DFKSAF</u> は再び行 われぬ
ゴールキーパーによる 反則	得点	セーブされない: DFKSAF は再び行われぬ (キッカーが明らかに影響を受 けていない限り) セーブされる: DFKSAF をは再び行われ ぬ、ゴールキーパーに注意、以 降の反則には警告
ゴールキーパーおよび キッカーが同時に反則を 行う	守備側チームの 間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告	守備側チームの 間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告
直接得点をするために ボールを相手のゴールに 向かってけらぬ	守備側チームの 間接フリーキック	守備側チームの 間接フリーキック
<u>4秒以内にキックを行わぬ</u>	守備側チームの 間接フリーキック	守備側チームの 間接フリーキック
不正なフェイント	守備側チームの 間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告	守備側チームの 間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告
<u>正しいキッカー</u> (<u>特定されていない</u>) <u>特定されていない</u> <u>キッカー</u>	守備側チームの 間接フリーキック + <u>正しい特定されていない</u> キッカーに注意せずに警告	守備側チームの 間接フリーキック + <u>正しい特定されていない</u> キッカーに注意せずに警告

第 14 条 ペナルティーキック

1 進め方

ボールは、ペナルティーマーク土の中心にボールの一部が触れるか、かかっている状況で静止していなければならず、ゴールポスト、クロスバーおよびゴールネットは、動かされてはならない。

(…)

2 反則と罰則

主審・第2審判がペナルティーキックを行う合図をしたならば、キックは行われなければならない。キックが行われなかった場合、主審・第2審判は、再びキックを行う合図をする前に懲戒処置をとることができる。

競技者による侵入(守備側ゴールキーパーを除く)

- ・ ペナルティーキックをかけた競技者の味方競技者は、次の場合にのみ侵入したとして罰せられる。
 - ・ 侵入が、明らかにゴールキーパーに影響を与えた。または、
 - ・ 侵入した競技者がボールをプレー、またはボールに向かうことで相手競技者にチャレンジして、その後、得点する、得点しようとする、または得点の機会を作り出す。
- ・ ゴールキーパーの味方競技者は、次の場合にのみ侵入したとして罰せられる。
 - ・ 侵入が、明らかにキッカーに影響を与えた。または、
 - ・ 侵入した競技者がボールをプレー、またはボールに向かうことで相手競技者にチャレンジして、相手競技者が得点する、得点しようとする、または得点の機会を作り出すことを妨げる。

ゴールキーパーの味方競技者が侵入により罰せられた場合、その試合において最初の反則に対しては注意が与えられ、それ以降の反則には警告が与えられる。

- ・ ボールがインプレーになる前に、次のいずれかが起きた場合、
(…)
- ・ 競技者がより重大な反則(例えば不正なフェイント)を行った場合を除き、両チームの競技者が反則を行った場合、キックは、再び行われる。反則した競技者はその試合において最初の反則については注意が与えられる。同じ競技者がその試合で引き続き反則を行った場合は、警告される。また、競技者がより重大な反則(例えば、不正なフェイント)を行った場合、相手競技者に間接フリーキックが与えられ、反則を行った競技者は注意されることなく、警告される。
(…)

3 要約表

ペナルティーキックの結果		
反則	ボールがゴールに入る	ボールがゴールに入らない
攻撃側競技者による侵入	影響あり: ペナルティーキックをは再び行うわれる 影響なし: 得点	影響あり: 守備側チームの間接フリーキック 影響なし: ペナルティーキックは再び行われぬ
守備側競技者による侵入	影響あり: 得点 影響なし: 得点	影響あり: ペナルティーキックをは再び行うわれる + 反則をした守備側競技者に注意、以降の反則には警告 影響なし: ペナルティーキックは再び行われぬ
守備側競技者および攻撃側競技者による侵入	影響あり: ペナルティーキックをは再び行うわれる + 反則をした競技者に注意、以降の反則には警告 影響なし: 得点	影響あり: ペナルティーキックをは再び行うわれる + 反則をした競技者に注意、以降の反則には警告 影響なし: ペナルティーキックは再び行われぬ
ゴールキーパーによる反則	得点	セーブされない: ペナルティーキックは再び行われぬ (キッカーが明らかに影響を受けていない限り) セーブされる: ペナルティーキックをは再び行われ、 ゴールキーパーに注意、 以降の反則には警告
ゴールキーパーおよびキッカーが同時に反則を行う	守備側チームの間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告	守備側チームの間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告
ボールが後方にけられた	守備側チームの間接フリーキック	守備側チームの間接フリーキック
不正なフェイント	守備側チームの間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告	守備側チームの間接フリーキック + キッカーに注意せずに警告
正しいキッカー (特定されていない) 特定されていないキッカー	守備側チームの間接フリーキック + 正しい特定されていないキッカーに注意せずに警告	守備側チームの間接フリーキック + 正しい特定されていないキッカーに注意せずに警告

第 15 条 キックイン

2 反則と罰則

(…)

キックインが行われるとき、キッカーの味方競技者がピッチの外にいて相手競技者を騙す、または有利なポジションを取った場合、キックインが相手チームに与えられ、反則を行った競技者は警告される。

相手競技者を騙す、または有利なポジションを取った場合、反則を行った競技者は警告される。

その他の反則があったならば、キックインが4秒以内に行われなかった場合、キックインが行われたときキッカーの味方競技者がピッチの外にいた場合も含めて、相手チームにキックインが与えられる。

競技規則の解釈およびレフェリングに求められること

第3条 — 競技者

ピッチから出る(認められる)

通常の交代に加え、競技者は次の状況において、主審または第2審判いずれかによる承認を得ることなく、ピッチを離れることができる。

- ・ ボールをプレーして、相手をドリブルで抜き去るときなど、プレーの動きの一環として、ピッチから出てすぐにピッチに戻る。しかしながら、相手競技者を騙す、または有利なポジションを取る目的でピッチを出て、ゴールの裏を回って、またはタッチラインに沿って移動してピッチに戻ることは認められない。この行為が行われた場合、アドバンテージが適用できないならば、主審・第2審判はプレーを停止する。プレーを停止したならば、間接フリーキックでプレーを再開し、反則を行った競技者は、反スポーツ的行為を行ったことで警告される。

第 12 条 — ファウルと不正行為

ボールを手や腕で扱う

競技者が手や腕で偶発的にボールに触れた直後に、他の競技者が意図的にボールをプレーすることなく相手競技者のゴールに得点した場合、得点は認められず、間接フリーキックが相手競技者に与えられる(ディフレクションは、意図的にボールをプレーしたとは考えない)。しかしながら、

- ・ 手や腕が競技者の体を不自然に大きくしていない場合でボールがゴールに入らなかったならば、プレーは続けられる。
- ・ ボールがゴールラインを越えて外に出たならば、ゴールクリアランスが相手競技者に与えられる。

“直後”とは、ハンドの反則が行われた場所からゴールまでの距離および、または偶発的なハンドの反則からゴールが決まるまでの時間とは直接的に関係しない。ボールが得点者以外の競技者によってプレーされることなく、競技者が、ボールが手や腕に触れた後に得点した場合、そのゴールは無効とされなければならない。

(…)

懲戒の罰則

競技者が次のようにボールを手や腕で扱ったとき、反スポーツ的行為で警告されることになる。例えば、競技者が、

- ・ 意図的に手や腕でボールを扱って得点しようとする。
- ・ ゴールキーパーが自分自身のペナルティーエリア内にいないとき、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止しようと意図的なハンドの反則を試みたが、失敗する。
- ・ ゴールキーパーによってゴールが守られているときに、意図的なハンドの反則によってゴールに向かってボールを止める。
- ・ 相手チームの大きな攻撃のチャンスを妨害または阻止する。ただし、意図的でないハンドの反則として主審・第2審判がペナルティーキックを与えた場合を除く。

- ・ 相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止し、意図的でないハンドの反則として主審・第2審判がペナルティーキックを与える。

(…)

ゴールキーパーによる反則

(…)

これらのケースで、ゴールキーパーにより近い主審・第2審判のいずれかが、誰が見ても分かるように4秒をカウントしなければならない。

ゴールキーパーがボールを保持して相手のハーフに入った場合、主審・第2審判は4秒のカウントを止める。ゴールキーパーがボールのコントロールを失うことなく自分自身のハーフに戻った場合、主審・第2審判はゼロから再びカウントする。

ゴールキーパーが自分自身のハーフ内でボールを保持してから交代した場合、ピッチに入ったゴールキーパーが自分自身のハーフ内でボールを保持したならば、主審・第2審判は4秒のカウントを続ける。

加えて、ゴールキーパーは、ピッチ上のどこであってもボールをプレーした後、相手競技者がプレーまたは触れることなく、味方競技者から意図的にプレーされたボールに自分自身のハーフ内で再び触れることができない。ゴールキーパーがピッチ上のどこであってもボールをプレーしてから交代した場合、ピッチに入ったゴールキーパーは、相手競技者がプレーまたは触れることなく、味方競技者から意図的にプレーされたボールに自分自身のハーフ内で触れることは同様に認められない。

更には、どんな状況であっても、ゴールキーパーは、キックインから直接パスされた場合を含め、味方競技者から意図的にキックされたボールに、自分自身のペナルティーエリア内で手や腕で触れることができない。

プレーの再開

- ・ 間接フリーキック

懲戒処置はとられない。しかしながら、ゴールキーパーが自分自身のペナルティーエリア外で手や腕を用いて自分自身のゴールに向っているボールを意図的に止めた場合、退場となる。(キックインからを含めて)ボールが意図的にパスで戻された場合、相手競技者がプレーまたは触れることなく、味方競技者から意図的にプレーされたボールに再び触れた場合も適用される。

(…)

ゴールを利用する、または、味方競技者の援助を得る

意図的にゴールを利用してする、または、味方競技者の援助を得てボールをプレーすることは、次の場合を含めて認められない。

- ・ クロスバーにぶら下がる。
- ・ 有利な位置をとるためにゴールをける、または押す。
- ・ 有利な位置をとるために味方競技者に持ち上げられる。
- ・ 高い位置を取るために味方競技者の肩や体の一部を利用する。
- ・ 有利な位置をとるために味方競技者に押される。

競技者がこのような反則を行った場合、警告されなければならない、間接フリーキックが相手チームに与えられる(第13条を参照)。競技者が相手競技者の得点または明らかな得点機会を阻止するためにこのような反則を行った場合、退場が命じられなければならない、相手チームに間接フリーキックが与えられる(第13条を参照)。